

Prevalence of Renal Dysfunction among Evacuees and Non-evacuees after the Great East Earthquake:  
Results from the Fukushima Health Management Survey

東日本大震災後の避難者と非避難者での腎機能障害有病率の検討：  
福島県民健康調査の結果から

佐藤博亮

福島県立医科大学医学部腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座  
福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

### 著者

佐藤博亮<sup>1,2</sup>、大平哲也<sup>2,3</sup>、永井雅人<sup>2,3</sup>、細矢光亮<sup>2,4</sup>、坂井晃<sup>2,5</sup>、渡辺毅<sup>1,2</sup>、大津留晶<sup>2,6</sup>、川崎幸彦<sup>2,4</sup>、  
鈴木均<sup>2,7</sup>、高橋敦史<sup>2,8</sup>、小橋元<sup>9</sup>、小笹晃太郎<sup>10</sup>、安村誠司<sup>2,11</sup>、山下俊一<sup>2,12</sup>、神谷研二<sup>2,13</sup>、阿部正文<sup>2</sup>

1 福島県立医科大学医学部腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座、2 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、3 福島県立医科大学医学部疫学講座、4 福島県立医科大学医学部小児科学講座、5 福島県立医科大学医学部放射線生命科学講座、6 福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座、7 福島県立医科大学医学部循環器・血液内科学講座、8 福島県立医科大学医学部消化器・リウマチ膠原病内科学講座、9 獨協医科大学公衆衛生学講座、10 放射線影響研究所疫学部、11 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、12 長崎大学原爆後障害医療研究所、13 広島大学原爆放射線医科学研究所

### 目的

今回我々は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故後の避難者と非避難者での慢性腎臓病（CKD）の有病率を分析しました。

### 方法

福島県の福島第一原子力発電所付近に住んでいて特定健診を受診した40歳以上の27,088人を分析しました。避難者と非避難者を推定糸球体濾過量（eGFR）および蛋白尿の程度により層別化して検討しました。

### 結果

eGFRが60 ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満であるCKDおよび蛋白尿を認めるCKDの有病率はそれぞれ、21.59%、1.85%でした。CKDの重症度分類では、避難者と非避難者ではCKD重症度に有意な差は認められませんでした。また、CKDの重症度別の糖尿病、高血圧、脂質異常症は、高リスク群では低リスク群に比べ有意に高い有病率を示しました。さらに、糖尿病、脂質異常は、低リスク群でのみ避難者において非避難者よりも有意に高い有病率を示しました。しかし、多変量ロジスティック回帰分析では、避難とCKDの有病率の間に、有意な関連は示されませんでした。

### 結論

本研究では、避難がCKD有病率のリスクを上昇させるという確定的な結論に達しませんでした。避難は将来的により多くの生活習慣病を引き起こすかもしれません。我々はこの情報が、避難者のフォローアップやライフスタイル変更の助言に重要であると考えています。

### 掲載情報

「Internal Medicine」(2016)

---

Satoh H, Ohira T, Nagai M, Hosoya M, Sakai A, Watanabe T, Ohtsuru A, Kawasaki Y, Suzuki H, Takahashi A, Kobashi G, Ozasa K, Yasumura S, Yamashita S, Kamiya K, Abe M

Internal Medicine. 2016; 55(18):2563-9.